

Q58

針刺し事故後の適切な対応について。

対象となる患者が特定できる場合、例えばHBs抗体陽性の職員がHBVの針刺し事故を起こした場合の対応とか予防処置の必要性、また特定できない場合の対応について教えてください。それから、事故があった場合の必要な検査や費用など、フォローアップの仕方も教えてください。

A

対象者の感染症が特定できる場合：それぞれの感染症の対策に準じてください。HBs抗体陽性の職員の場合には、HBVの針刺し事故の場合の予防処置は不要です¹⁾。

対象者の感染症が特定できない場合：その事故の時点でその感染症を持っていなかったことを証明しておく必要があります。このため、事故後速やかに血液媒介感染を起こし得る感染症について(HBV, HCV, HIV)抗体検査を受けるようにしてください。その後は、3ヵ月後と6ヵ月後に抗体検査のフォローをしておけばいいと思います。

検査や治療にかかる費用は病院ごとで異なると思いますが、病院の費用で行っていることが多いのではないかと思います。

その事故が原因であると確定できれば労災の適応になると思われます。したがって、事故の時点では、抗体陰性であったことの証拠が必要になります。事故後は、速やかに抗体検査を行い、カルテに結果を残すようにしてください。

文献

- 1) 木戸内 清編：インフェクションコントロール。メディカ出版，大阪，2002年増刊

(岡 慎一)